

こっちへきたら

こっちへきたら

こっち こっちだよ

明け方に誰かが私を呼んでいる

ベランダの方から声がする

寝ぼけたままでガラスの引き戸を開けた

植木鉢が並んだベランダガーデンは朝日に包まれている

白いジャスマミンがほのかな金色に輝き

甘い匂いを漂わせている

真っ赤なブーゲンビリアも寄り添って咲いている

だがそこには誰もいない

こっちへきたよ

そうこっちへ こっちだよ

あわててサンダルを履きながら

大声で呼んでみたが返事はない

ベランダの端から上を見た

昇りかけた太陽の日差しを受けて

うつすらとした青空が広がっている

下を覗き込んだが誰もいない

早朝の駐車場は車でいっぱい

朝日を浴びた車たちが静かに主人を待っている

そこへ突然声がした

こつち こつちへきたら

六階のベランダからぐるりとあたりを見回した

誰もいない

ぼんやりと手すりにもたれた

こつち こつち こつちだよ

まっすぐ前に目をやると

向かいの森から声がする

こつち こつち こつちだよ

甲高い声が辺りに響きわたっている

声はわたしを急かし始めた

太陽が昇りきららないうちに……

私は声を追いかけた

急がなければ 早く 早く

わたしは手すりによじ登り

両手を広げて こつちへと 飛んでいった

こつち こつちだよ

森で一番高いガジュマルの木のでっぺんに

小さな黒い鳥が止まっていた

わたしはやっと こつちにたどり着いた

ところで こつち はどこなの

わたしはたずねた

こつち こつち だよ

黒い鳥は こつち こつち を繰り返した

ふと向かいのベランダを見ると

さつきまで自分が立っていたところは空っぽ

まぶしい朝日がガラスに反射している

あつちは あつち

とつぜん黒い鳥が大声を上げてバタついた

胸騒ぎがして駐車場に目をやると

そこにはわたしが横たわっていた

朝日を浴びて微笑んだままのわたしが

あつちから こつちへ 飛び越えたわたしが